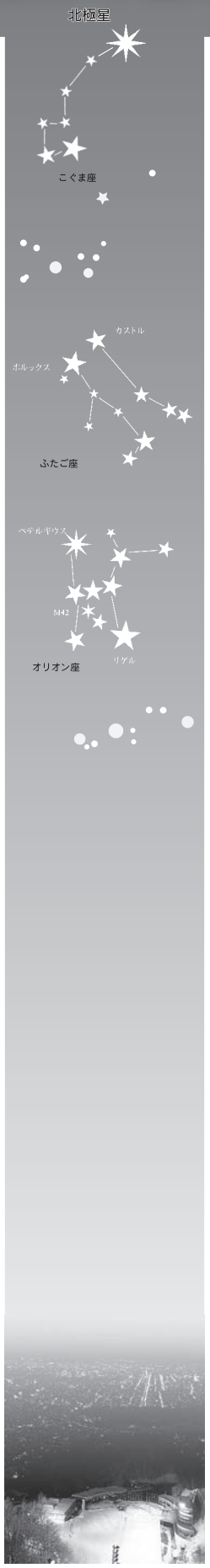
# ポラリスを仰ぐ北の大地から




## 道北に風向きが変わった？

宗谷医師会 会長　櫻井　晴邦

ここ数年、各地で異常なことが起きています。
しかし考え方を変えて悪いことばかりではないと、良い方向に今回思考回路を修正してみました。

新型コロナは人口密度が低い過疎に有利で、感染の確率は低いと考える。

オマケに学会等も最近はオンラインで専門医の単位も取れるようになった。

温暖化で日本全国灼熱の中、ここは格段に涼しく台風被害もほぼない。

豪雨災害の大きな河川による大規模浸水もほぼなし。

地震の大規模被害も過去にない。

吹雪はあるがほぼ札幌等と変わらず。

最低気温はさほど下がらず、積雪も内陸と比べ少ない。

以上プラス思考で考えてみました。
なかなか良いと思いますが、いかがでしょう。
これらのことでしばらくは元気でいられそうです。
でも昔から太陽好きな私。
クーラーキンキンの部屋から出た直後のプールのような湿度と開放感が大好きですが、なにか。。。？

## 新型コロナ感染症に思う

札幌医科大学医師会 会長　土橋　和文

本誌1207号拙文「改元：新たな時代の幕開け」で、SNS等による情報爆発と個別深化、健康問題のバラエティー化、日常診療のダイナミズムの失色、医療者の主体的と絆の脆弱化への危惧を書かせていただいた。「天然痘の撲滅」・「エボラとSARS／MERS散発」・「新型インフルエンザのパンデミック」を経験した世代は、新興感染症「新型コロナ」のパンデミック、当然、予想すらできていなかった。

新興感染症は社会構造と活動の弱点を露見させる。「コロナ」、全く賢い奴だ。「分断ウイルス」である。個と社会活動、衛生行政と医療の狭間を微妙に渡り歩く。感染当初の武漢・旅客船（第一波）・イタリア（第二波）の恐怖映像、繰り返された水際対策の欠落と「医療崩壊」なる屈辱的デマゴーグから、医療者の恐怖と忌避により当該地域でも「表層雪崩（真の雪崩ではない）」をきたした。診断と治療の特効手段がないので無理もない。が我々は「馬鹿」ではない。「分断」の要因を学んだ。思い起そうこの間、指針・規定・法律にない医療者の主体的活躍に勇気をいただいた。院内外を問わず熱い論議が交わされた。まさに医のダイナミズムと知恵を見た。

医療情報爆発とワイドショウには政争、扇動の雰囲気すら漂う。情報の扱いには注意が必要だ。先達の教えが思い起こされる。「一次文献と教科書情報にあたれ」「比較と自己検証」「常識と見極めるセンスによる自己判断」が必要だ。東京由来の第三波（？）、まだまだ油断できない。恐れず準備が必要だ。「コロナ」中ないし後、科学的検証は当然だが、当該地域の実情にあった医療体制構築の好機と捉えるべきだろう。